



達磨と雪だるま



雪が積もると雪かきが大変ですが、町なかに雪だるまが作ってあるとうれしくなります。

雪だるまがいつ頃からあるかという、浮世絵の歌川広重や葛飾北斎の作品に描かれていることから江戸時代後期にはすでに存在したようです。

浮世絵の中の雪だるまは、言葉どおり縁起物の達磨の形で顔は墨で描かれていたとのこと。達磨型から2段重ねになった過程は不明ですが、ココココ雪を転がす作業や木の実や枝を使って雪だるまを作るのは楽しいものです。

ちなみに、「世界一の雪だるま」は山形県大蔵村で作られた「おおくら君」で、身長は29m。平成7年に、ギネス認定されています。

寒さに負けず、雪国の子どもには今も昔も雪遊びをしてほしいですね。



世界一の雪だるま@山形県大蔵村

「Eco列車でいこう！」～第183回～ はっけよい大相撲。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！)



連日「満員御礼」が続く大相撲。運よくチケットが取れたので夫婦で観戦に行くことにした。

1月12日(日)。JREポイントの特典「どこかにビューン」で当たったチケットで高崎まで新幹線に乗り、在来線に乗り継いで「両国駅」には11:30に到着。

力士名が書かれた華やかな幟が並び、浴衣姿の力士が闊歩する。テンションが上がる。見たことあるような？親方にチケットをちぎってもらい、「両国国技館」に入場。

午前中はチケット確認の方もいないので1階の升席を少し見学する。赤い座布団が整然とならび、基本的に1区間4名分に区切られている。すでに「序二段」が「三段目」の取り組みが行われていた。

一通り見学すると、お腹がすいてきた。せっかくだから、限定のちゃんこ鍋を食したい。売店で弁当とビールを買って列に並び、地下の大広間で「味噌ちゃんこ」を購入。1杯500円。具沢山でコクがあり旨い。ちなみに国技館グルメはかなり充実しており、スイーツや力士弁当、寿司などもあった。

14時を過ぎると、大相撲のマスコットキャラクター「ひよの山」「あんこ山」らの着ぐるみが登場し、華やかになった。この時間、そろそろ幕内力士が出勤してくる。そちらも見たいので、なかなか忙しい。

升席は1人1万円程度だが、今回取れたチケットは2階最後尾のD席。2500円の最安席なので土俵がとても小さく見えるが、国技館全体が見渡せるし、取り組みもちゃんと見えるので悪くはない。周りは西洋人観光客が多い。親は真剣に見ているが、子どもは退屈そう。どこの国も同じだなと思う。

さて、16時を過ぎ、「幕内力士土俵入り」「横綱土俵入り」と続く。人気力士が登場すると大きな声援がかかり、会場のボルテージも上がっていく。

この日は大関「大の里」、横綱「照ノ富士」が敗れる波乱があり、会場は大いに沸いた。

弓取式が終わって外に出ると、檐から軽快な「跳び太鼓」が奏でられている。太鼓を背中に浴びながら、気持ち良く「馬喰町」まで歩いて、本日の宿泊地「横浜／伊勢佐木町」へと向かった。



午前中の升席は空いていた



「味噌ちゃんこ」と「おつまみ折り詰め」



翌朝。中華街の「五目がゆ」は旨かった。